

いわゆる境界域梗塞の運動症候 －再考－

横地健治



1



2

1



3



4



5



6



7



8

1y8m



股屈筋バネの短縮張力を
脊柱伸展・骨盤後傾張力で
対抗する

右股伸展荷重の失敗
→股屈筋バネの短縮
→下肢前方振り上げ・体幹後傾

9



10



- ・股屈・膝屈・体幹前傾・上肢後方位 股屈曲に対応
- ・軽度開脚・骨盤の振り子
- ・足踏み・極小歩幅前進（軽度開脚）
- ・小刻みすり足前進
- ・一側足の宙浮き 振り子の停滞

強い股屈曲バネへの対応

11



- ・体幹前傾
- ・股屈曲
- ・肩ひけ

12

いわゆる境界域梗塞の運動障害

- いわゆる境界域梗塞にみられる患者の運動障害の本体は、下肢運動で、運動開始に伴う基盤筋活動の抑制が不完全であることである。これにより股伸展可動域の制限、反抗運動がみられる。具体的には、股屈筋がバネ様張力を保持しており、これに対抗するための重心の後方化がみられる。また、踏みしめの反抗運動がみられる。
- 上肢運動でも肩伸展・内転・内旋・頸伸展の筋活動がわずかな優勢はみられる。手の前方に出にくさがあり。手指の偏位、過大な指運動もあり。過大な開口もみられる。